

キャラクター名 キバ=ユージ	プレイヤー名
-------------------	--------

種族	ドレイク	種族特徴	暗視/限定電化/光プレス/弱点(魔法+2)		
生まれ	神官戦士	性別	男	年齢	18
冒険者Lv	6	経歴	人族の親から生まれた先祖がえり		
経験点	-1500		戦場に置き去りにされたことがある 人族に一目置かれている		

技	12	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	5	3		20	3				
体	12	敏捷度	1	2		15	2	プリースト/騎士神ザイア	5		
		筋力	7	3		22 + 2	4	ライダー	5		
心	6	生命力	6	2		20	3				
		知力	12			18	3				
		精神力	10	4		20	3				

戦闘特技		値	備考
防具習熟/金属鎧	222	p	
魔法拡大/数	226	p	
マルチアクション	2125	p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドレイク語	○	○
汎用蛮族語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術		値	備考
キャッツアイ			
ビートルスキン			
HP強化			
騎獣強化			
遠隔指示			
高所攻撃			
人馬一体			
怒涛の攻陣 1			
怒涛の攻陣 2 旋風			

名誉アイテム	点数
名誉点 所持 50 /合計 50	

技能	基本レベル	基本命中力	基本回避力	基本ダメージ
ファイター	6	9	8	10
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要		
ランク	筋力	回避力	防護点	
鎧	プレートアーマー	21	-2	7
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				1
回避技能	ファイター	合計値	6	8

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
バスタードソード	1H両	17		2d+ 9	10	10	17										
バスタードソード	2H	17		2d+ 9	10	10	27										
シャムシール	2H	22		2d+ 9	10	10	32										

一般装備品	(消耗チェック)
魔香草x3	○□□○□□
馬(ウオーホース)	○□□○□□
魔晶石(三点分)×3x3	○□□○□□
魔晶石(五点分)×2x2	○□□○□□
騎獣契約書	○□□○□□
騎獣縮小の札Ⅱx3	○□□○□□

所持金	6030	預金・借金	G
-----	------	-------	---

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3	15	45	2d+ 6	8	38

魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP
2d+ 8/X	2d+ 0	2d+ 9	2d+ 9	35

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
神聖魔法	5	8			

装備品	説明
頭 バンダナ	自身の角を隠すための物 20ガメル×3つ所持
耳	
顔	
首 シスターの写真が入ったロケット	思い出の品
背中	
右手 能力増強の腕輪(筋力)	
腰	
足 聖印(専用化)	神聖魔法を使用するために必要な物 mp+2
その他 騎獣契約書	

装備品	説明
左手	

その他メモ

彼が生を受けたのは平凡な人間の両親だった。しかし、彼はこの世に生を受けた瞬間から異端であった。人間の両親から生まれたにも関わらず、蛮族(ドレイク)として生まれたのだ。キバ家の先祖には、過去にドレイクと愛し合い、家族から迫害され二人で駆け落ちした間の家系図があったのだ。そして不運なことにユージはその身に蛮族の能力を宿してしまったのだ。オオ、ナムアマダブツ! ユージを蛮族と思わず育てようとした両親であったが、5歳のころに限界が訪れた。ある日両親はユージをピクニックに連れていき、初めて外に出掛けた。その日は何故か両親がとても優しく、そしてずっと笑顔だったのを今でも克明に覚えている。両親が向かったのは森の中だった。ある地点まで来たときに父が「あれを見てごらん?」と指をさした方を見た瞬間、父に背中を思いっきり蹴られたのだ。突然の衝撃に飛ばされたユージは川の中に落ちた。そして水面で彼が見たものは1体のクロコダイルだった。両親に救いを求めようと振り返るとそこには誰もいなかった。そこから先はあまり覚えていない。無我夢中で水面から逃げ出し、走った。とにかく生き延びようと走ったのだ。走り続けて、どれだけ経ったか街の光を見た彼は安堵からかぶっ倒れた。もう、身体が言うことを聞けなかったのだ。ここで死ぬのか、と手を伸ばした彼の手を握り返す手があった。それこそが彼が今でも尊敬する人物シスターの「ユカ」である。彼女は彼が蛮族であるということも構わず、自分の教会に連れ帰ってくれた。彼は「この世界には神がいる。自分

自動失敗  
チェック  
○□□□⑤  
○□□□⑩  
○□□□⑮  
○□□□⑳  
○□□□㉑  
○□□□㉒  
○□□□㉓  
○□□□㉔  
○□□□㉕